

【2020 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/基礎医学系】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
解剖学実習 (作業療法学科中心)		必修 (作) 選択 (福)	1	1	前期
担当教員	研究室	電子メール ID		オフィスアワー	
志茂 聡	C306	sshimo		水曜日 12:10~13:00	
授業の目的・概要	<p>解剖学実習では、身体の内部構造である骨格系と筋系について、各骨・筋の名称および部位名称を説明することができることを目的とする。また、体表に現れる凹凸を手掛かりにして各骨・筋の名称および部位名称を説明することができることを目的とする。1 年前期に開講する解剖学 I での内臓学と関連付けて理解することを目的とする。</p> <p>解剖学実習では、①課題学習および遠隔授業により、全身の骨の名称とそれぞれの形、大きさ、特徴ある部位の名称を学習する。さらに、②筋系について模型と図譜で学習した後、教科書の人体解剖標本図を用いて各筋の形態や神経・血管の立体的な位置関係などを学習する。これらの内容について、課題学習等を通して理解するとともに、授業におけるメディア(Microsoft Teams)を利用した意見交換や、提出課題に対するフィードバックを活用して包括的な理解につなげる。</p>				
学習上の助言	事前に内容および課題学習について説明と資料配布を行うので、各回の課題範囲を確認すること。また、毎回の授業の終わりに自宅課題を提示するので、教科書と配布資料で内容を確認して取り組むこと。				
教科書	解剖学 標準理学療法学・作業療法学 (専門基礎) 第 5 版/ 野村巖 (編集) / 医学書院 (2017)、プロメテウス解剖学 コア アトラス 第 3 版 / 監訳: 坂井建雄 / 医学書院 (2019)				
参考書	解剖学アトラス/ 越智淳三 (訳) / 文光堂 (2013)、解剖学講義/ 伊藤隆著/ 南山堂 (2014)、標準組織学 総論・標準組織学 各論/ 藤田尚男・藤田恒夫/ 医学書院 (2017)				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	中枢神経系の構成および末梢神経 (脳神経・自律神経) の構成を説明できる。			HSU (2)、OT (1) ~ (3)	
②	各神経が支配する構造と機能を説明できる。			OT (2) ~ (3)	
③	感覚器系の構造と機能を説明できる。			OT (1) ~ (2)	
④					
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	事前事後学習内容・必要時間 (時間)		
1	<p>総論: 体表区と解剖学用語 (方向・断面用語) について学ぶ。</p> <p>骨格系 1: 骨構造と連結 (関節など) について学ぶ。</p> <p>フィードバック: 課題返却で実施 意見交換の機会: メール等で随時実施</p>	印刷教材等での授業	<p>体表区分およびからだの座標軸 (水平面、前額面、矢状面) と解剖学用語について教科書と配布資料で確認する。</p> <p>骨構造 (骨質、緻密骨、海綿骨、骨端線-骨端軟骨、成長部位) と連結 (線維性連結、軟骨性連結、滑膜性連結) について教科書と配布資料で確認する。</p>	2	
2	<p>第 1 回講義後に、人体模型を用いたスケッチによる実習を行う。</p> <p>フィードバック: 課題返却で実施 意見交換の機会: メール等で随時実施</p>	印刷教材等での授業	<p>解剖学用語について配布資料と人体模型図を使い確認する。</p>	2	
3	<p>骨格系 2: 脊柱 (椎骨) の構造と種類や連結を学ぶ。</p> <p>フィードバック: 課題返却で実施 意見交換の機会: メール等で随時実施</p>	印刷教材等での授業	<p>脊柱 (椎骨 (頸椎・胸椎・腰椎)、仙骨) と部位 (脊柱管、椎間孔、椎間円板) および関連する関節 (椎間関節、環椎後頭関節、環軸関節 (正中・外側) の種類、脊柱の彎曲について教科書と配布資料で確認する。</p>	2	
4	<p>第 3 回講義後に、人体模型を用いたスケッチによる実習を行う。</p> <p>フィードバック: 課題返却で実施 意見交換の機会: メール等で随時実施</p>	印刷教材等での授業	<p>全身の関節、脊柱の構造について配布資料と人体模型図を使い確認する。</p>	2	
5	<p>骨格系 3: 胸郭の構造と種類や連結について学ぶ。</p> <p>骨格系 4: 上肢の骨格について学ぶ。</p> <p>フィードバック: 課題返却で実施 意見交換の機会: メール等で随時実施</p>	印刷教材等での授業	<p>胸郭 (胸椎、肋骨; 真肋、仮肋、浮遊肋、肋軟骨、胸骨) の構造と種類について教科書と配布資料で確認する。</p> <p>上肢 (上肢帯; 肩甲骨、鎖骨、自由上肢; 上腕骨、橈骨、尺骨、手根骨、中手骨、指骨) の構造と関節について教科書と配布資料で確認する。</p>	2	
6	<p>第 5 回講義後に、人体模型を用いたスケッチによる実習を行う。</p> <p>フィードバック: 課題返却で実施 意見交換の機会: メール等で随時実施</p>	印刷教材等での授業	<p>胸郭、上肢の構造について配布資料と人体模型図を使い確認する。</p>	2	
7	<p>骨格系 5: 骨盤と下肢の骨格について学ぶ。</p> <p>フィードバック: 課題返却で実施 意見交換の機会: メール等で随時実施</p>	印刷教材等での授業	<p>骨盤 (腸骨、恥骨、坐骨)・下肢 (大腿骨、膝蓋骨、脛骨、腓骨、足根骨、中足骨、指骨) の構造と関節について配布資料等で確認する。</p>	2	

【2020 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/基礎医学系】

授 業 計 画				
回	学習内容等	授業の方法	事前事後学習内容・必要時間（時間）	
8	第 5 回講義後に、人体模型を用いたスケッチによる実習を行う。 フィードバック：課題返却で実施 意見交換の機会：メール等で随時実施	印刷教材等での授業	骨盤・下肢について配布資料と人体模型図を使い確認する。	2
9	骨格系 6: 頭蓋の構成骨と連結について学ぶ。 フィードバック：課題返却で実施 意見交換の機会：メール等で随時実施	印刷教材等での授業	頭蓋の構成骨（神経頭蓋；前頭骨、頭頂骨、後頭骨、側頭骨、蝶形骨、篩骨、内臓頭蓋；鼻骨、鋤骨、涙骨、下鼻甲介、上顎骨、頬骨、口蓋骨、下顎骨、舌骨）と連結について教科書と配布資料で確認する。	2
10	第 13 回講義後に、人体模型を用いたスケッチによる実習を行う。 フィードバック：課題返却で実施 意見交換の機会：メール等で随時実施	印刷教材等での授業	頭蓋の構成骨について配布資料と人体模型図を使い確認する。	2
11	骨格系（脊柱・胸郭・上肢）について模型・図譜等を確認して復習する。口頭試問による評価 フィードバック：課題返却で実施 意見交換の機会：メール等で随時実施	印刷教材等での授業	脊柱・胸郭・上肢の構造と関節について教科書と配布資料、人体模型図で確認する。	2
12	骨格系（骨盤・下肢・頭蓋）について模型・図譜等を確認して復習する。口頭試問による評価 フィードバック：課題返却で実施 意見交換の機会：メール等で随時実施	印刷教材等での授業	骨盤・下肢・頭蓋の構造と関節について教科書と配布資料、人体模型図で確認する。	2
13	筋系 1: 筋の一般構造、起止停止について学ぶ。 筋系 2: 体幹の筋（固有背筋など）について学ぶ。 フィードバック：授業時間内に実施 意見交換の機会：授業時間内に実施	同時双方向型授業	筋の一般構造（随意筋；骨格筋、不随意筋；伸筋、平滑筋）と筋の形状と名称（紡錘状筋、半羽状筋、羽状筋、二頭筋、鋸筋、二腹筋、板状筋、輪状筋、方形筋）について教科書と配布資料で確認する。 固有背筋（浅背部の筋；僧帽筋、広背筋、肩甲挙筋、大・小菱形筋、深背部の筋；上・下後鋸筋、固有背筋群；板状筋群、脊柱起立筋群、横突棘筋群）について教科書と配布資料で確認する。	1
14	第 13 回講義後に、人体模型を用いたスケッチによる実習を行う。 フィードバック：授業時間内に実施 意見交換の機会：授業時間内に実施	同時双方向型授業	筋の一般構造、固有背筋について配布資料と人体模型図を使い確認する。	1
15	筋系 3: 上肢帯および上腕の筋について学ぶ。 フィードバック：授業時間内に実施 意見交換の機会：授業時間内に実施	同時双方向型授業	上肢帯（三角筋、肩甲下筋、棘上筋、棘下筋、小円筋、大円筋）と上腕の筋（上腕二頭筋、上腕筋、烏口腕筋、上腕三頭筋、肘筋）について配布資料等で確認する。	1
16	第 16 回講義後に、人体模型を用いたスケッチによる実習を行う。 フィードバック：授業時間内に実施 意見交換の機会：授業時間内に実施	同時双方向型授業	上肢帯と上腕の筋について配布資料と人体模型図を使い確認する。	1
17	筋系 4: 前腕・手の筋および下肢帯の筋について学ぶ。 フィードバック：授業時間内に実施 意見交換の機会：授業時間内に実施	同時双方向型授業	前腕（前腕前面の筋群；橈側手根屈筋、尺側手根屈筋、長掌筋 浅指屈筋、深指屈筋、長母指屈筋、円回内筋、方形回内筋など）・手の筋（母指球筋；短母指外転筋、短母指屈筋など、小指球筋；小指外転筋、短小指屈筋など、中手筋；母指内転筋、虫様筋など）について教科書と配布資料で確認する。	1
18	第 17 回講義後に、人体模型を用いたスケッチによる実習を行う。 フィードバック：授業時間内に実施 意見交換の機会：授業時間内に実施	同時双方向型授業	前腕・手の筋について配布資料と人体模型図を使い確認する。	1
19	筋系 5: 下肢の筋（大腿の筋、下腿の筋）について学ぶ。 フィードバック：授業時間内に実施 意見交換の機会：授業時間内に実施	同時双方向型授業	下肢の筋（内寛骨筋；腸骨筋、大腰筋、小腰筋、外寛骨筋；殿筋群、外旋筋群、大腿部； 大腿四頭筋、縫工筋、恥骨筋など、下腿の筋群；前脛骨筋、長母指伸筋、長指伸筋など）について教科書と配布資料で確認する。	1

【2020 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/基礎医学系】

授 業 計 画							
回	学習内容等	授業の方法	事前事後学習内容・必要時間（時間）				
20	第 19 回講義後に、人体模型を用いたスケッチによる実習を行う。 フィードバック：授業時間内に実施 意見交換の機会：授業時間内に実施	同時双方向型 授業	下肢の筋について配布資料と人体模型図を使い確認する。			1	
21	筋系（体幹・上肢帯・上腕・前腕）について模型・図譜等を確認して復習する。 フィードバック：授業時間内に実施 意見交換の機会：授業時間内に実施	同時双方向型 授業	上下肢・体幹の筋について教科書と配布資料で確認する。			1	
22	筋系（下肢帯・大腿・下腿）について模型・図譜等を確認して復習する。 フィードバック：授業時間内に実施 意見交換の機会：授業時間内に実施	同時双方向型 授業	上下肢・体幹の筋について配布資料と人体模型図で確認する。			1	
23	顕微鏡による実習：標本スライドでの立体的な位置関係について学ぶ。 これまでの学習の総括 フィードバック：授業時間内に実施 意見交換の機会：授業時間内に実施	同時双方向型 授業	骨（緻密骨、海綿骨、オステオン）や筋（アクチン、ミオシン、A 帯、I 帯）の基本構造について教科書と配布プリントで確認する。 試験範囲の内容を教科書と配布資料を使って確認する。			1	
試	定期試験 達成度評価 評価のポイント参照						
達成度評価							
総合評価割合（%）		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		90	10	0	0	0	100
総合力指標	知識・技術力	90	10	0	0	0	100
	思考・推論・創造する力	0	0	0	0	0	0
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	0	0
評価のポイント							
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点			フィードバックの方法		
試験	①	✓	評価方法は、前半（第 1 回～12 回）骨学と後半（第 13 回～22 回）の筋名のすべての範囲で実施するので、試験範囲に注意すること。 評価割合は各 45%で合計 90%とする。			試験の添削・返却・解説をおこなう。	
	②	✓					
	③	✓					
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①	✓	骨筋の観察では毎回の自宅課題を提出する。評価割合は 10%とする。			課題提出後、解説を行う。	
	②	✓					
	③	✓					
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						

【2020 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/基礎医学系】

その他	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			

備 考

教員の実務経験：担当教員は、解剖学で博士号（医学、山梨大学）を取得しており、本学（専任教員）および山梨大学医学部解剖学講座構造生物学教室（非常勤講師 令和 2 年現在）にて長年解剖学の教育に携わってきた解剖学教育の専門家である。作業療法士免許を有し、実務経験は 10 年である。

実践的授業の内容：解剖学における人体の構造に関わる項目の概念は、書物や視聴覚教材によって理解できると思うが、臨床時に応用できるまでの確固たる知識やイメージを獲得しにくい部分が多々ある。この授業では、実際に人体解剖に携わってきた教員により、経験に基づく様々な視点から人体の構造についての具体的な解説がなされるため、やがて臨床家となる受講者にとっては実際に即した知識を獲得でき、受講者の疑問への対応を通して、より実践的な教育を受けることができる。また、能動的学習の補助として、各回の内容に沿った内容を web 上で確認できるようにしている。

Teams を使って遠隔授業を行います。

課題ダウンロード等がありますので、通信容量制限がある場合は通信量に十分に注意して下さい。

今後の社会情勢によって再度シラバスの変更があり得ます。